

■ 講習内容

講習名	【選択】俊成の和歌、定家の和歌		講習No	1
講師	石川 泰水（文学部国文学科教授）		時間数	6時間
開講日	平成29年8月8日（火）	講習時間	9:30～16:40（途中休憩70分を含む）	
<p>[講義内容] 平安時代末期から鎌倉時代初期の歌壇をリードした、藤原俊成、定家親子。しかしこの二人の和歌は、かなり大きな相違を抱えているように思います。伝記等の説明は簡略に止め、その和歌を読むことに時間を費やしたいと思います。その和歌の難しさを平易なもののように伝えるつもりはありません。難しいものと認めた上で、解説を加えていく所存です。</p> <p>[到達目標] 新古今時代の和歌に馴れ、二人の有名歌人の歌風の相違をみずから感じ取り、それを説明できることを目標とします。</p> <p>[備考] プリントを用意するので、テキスト等は不要。</p>				

講習名	【選択】日本の詩歌——近代篇		講習No	2
講師	杉本 優（文学部国文学科教授）		時間数	6時間
開講日	平成29年8月9日（水）	講習時間	9:30～16:40（途中休憩70分を含む）	
<p>[講義内容] 日本の近代詩歌（明治以降）を広くとらえ、選定された対象（講習時間の関係上、三つ前後か）について具体的に検討していく。堀口大學、まど・みちお、石川啄木、丸山薫、中野重治、那珂太郎など候補として考えられるが、最終的には受講状況等を考慮して決めたい。</p> <p>[到達目標] 近代詩歌作品を対象に、その表現特性の理解を通しての読解能力を涵養する。</p> <p>[備考] テキストは配布プリント。受講者には作品朗読への参加を期待する。</p>				

講習名	【選択】英米の文化と文学への誘いー文学篇ー		講習No	3
講師	林 南乃加（文学部英米文化学科講師） 島田 協子（文学部英米文化学科准教授）	時間数	6 時間	
開講日	平成29年 8 月 8 日（火）	講習時間	9:30～16:40（途中休憩70分を含む）	
<p>[講義内容]</p> <p>今なお新鮮な魅力を持つアメリカ・イギリス文学の古典を様々な視点から読み解きます。アメリカ文学ではネイチャー・ライティングの筆頭に挙げられるヘンリー・デイヴィッド・ソローの『森の生活』（1854）、その他の主要著作をとりあげます。当時の物質文明社会に背を向けて自然に分け入ったソローの思想に触れます。イギリス文学ではヴァージニア・ウルフ『灯台へ』（1927）他をとりあげ、第一次世界大戦前後の「時の推移」と多様な人々の姿を描く作品を通して、その多面性と先見性を探ります。</p> <p>[到達目標]</p> <p>文学作品の読解を通じ、作品の背後にある英米文化への理解を深めるとともに、時代と国境を越えた文学の力を再発見する契機とします。</p> <p>[備考]</p> <p>講義に使用する翻訳文は、プリントで配付します。 担当教科にかかわらず、英米文学に関心のある方を対象とします。</p>				

講習名	【選択】英米の文化と文学への誘いー絵・映画篇ー		講習No	4
講師	小林 徹（文学部英米文化学科教授） 木下 耕介（文学部英米文化学科准教授）	時間数	6 時間	
開講日	平成29年 8 月 9 日（水）	講習時間	9:30～16:40（途中休憩70分を含む）	
<p>[講義内容]</p> <p>本講座では、絵と映画を通して、国家・地域としての英米あるいは英米人の様相を浮かび上がらせます。最初に採り上げるのは、英国ルネサンス時代に作成された一枚の版画です。そこに描かれているものが文字通り森羅万象であることを見出すときはまた、英国を含むヨーロッパにおける宗教的精神の有様を理解するときでもあります。さらに、20世紀初頭のアメリカに目を転じ、ハリウッド映画と社会の関係を探ります。なかでもアメリカの大国化の時期に発展したハリウッド映画が、自国の信奉する価値観・世界観を可視化・物語化する装置として機能した点に注目します。 こうした講義を通じて、当該世界の魅力が増すと考えます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>英語文化圏に属する英国、米国について、表面的な文化的事情にとどまらず、それを支えている構造や、文化を作り出す人間の精神的側面に関しても理解すること。</p> <p>[備考]</p> <p>講義内容および到達目標から、本講座は、英語科教員ならびに社会科教員、または美術科教員の方々には相応しいと思われれます。</p>				

講習名	【選択】芸術の世界－芸術を観る－		講習No	5
講師	塩澤 寛樹（文学部美学美術史学科教授） 大野 陽子（文学部美学美術史学科准教授）	時間数	6 時間	
開講日	平成29年8月8日（火）	講習時間	9:30～16:40（途中休憩70分を含む）	
<p>[講義内容]</p> <p>美学美術史学科の「美術史」の教員が、日本美術史と西洋美術史の専門分野から、さまざまな時代の美術作品を通して芸術を観るポイントを講義します。日本美術では仏教美術を、西洋美術ではキリスト教美術を扱い、それぞれの代表的な作品を例にとり、表現の面白さを観ながら、歴史的意義についても理解を深めます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>日本美術史や西洋美術史の内容に触れることによって、美術鑑賞や歴史・文化を理解するうえでの参考とし、美術(図画工作)や世界史・日本史(社会)の教科での指導に活用できること。古代ギリシア・ローマの芸術について新しい研究などを通じた知見を得るとともに、美術鑑賞や歴史・文化理解をするうえでの参考とすること。</p> <p>[備考]</p> <p>作品の映写のため室内を暗くします。ペンライトなどをご持参ください。</p>				

講習名	【選択】芸術の世界－芸術を観る、考える－		講習No	6
講師	北野 雅弘（文学部美学美術史学科教授） 藤沢 桜子（文学部美学美術史学科教授）	時間数	6 時間	
開講日	平成29年8月9日（水）	講習時間	9:30～16:40（途中休憩70分を含む）	
<p>[講義内容]</p> <p>西洋文化の基本となる古代ギリシア・ローマの芸術について、美学と美術史の立場から講義をします。美学では、ヨーロッパ近代の芸術の一つの要点であり、近代の芸術観を形づくったギリシア悲劇について考察します。美術史では、古代ギリシア・ローマ美術と、ルネサンスなど後代の美術への影響や受容についてみていきます。</p> <p>[到達目標]</p> <p>古代ギリシア・ローマの芸術について新しい研究などを通じた知見を得るとともに、美術鑑賞や歴史・文化理解をするうえでの参考とすること。</p> <p>[備考]</p> <p>なし。</p>				

講習名	【選択】男と女の社会学（教育と性差）		講習No	7
講師	佐々木 尚毅（文学部英米文化学科教授）		時間数	6時間
開講日	平成29年8月4日（金）	講習時間	9:30～16:40（途中休憩70分を含む）	
<p>[講義内容]</p> <p>学校は様々な個性を持つ子どもたちの学びの場である。「男」「女」「様々な障害を持つ児童生徒」、様々な個性が一緒に育ちあう場でもある。一見平等に見える学校現場で、なぜ今ノーマライゼーション思想・インテグレーション・インクルーシブ教育の推進が求められているのか。もっとも身近な「性差別」を通して、平等な教育を受ける権利をいかに保障することが適切で理にかなったことであるのかを具体的な取り組みを通して学ぶ。</p> <p>[到達目標]</p> <p>スウェーデンの先進事例（とくに「差別禁止法」等）を通してノーマライゼーション思想・インテグレーション・インクルーシブ教育を理解し、実際的対応ができるようになる。</p> <p>[備考]</p> <p>なし。</p>				

講習名	【選択】子どもを知るために自分を知る ：自己・他者理解の心理学		講習No	7
講師	宮内 洋（文学部国文学科教授）		時間数	6時間
開講日	平成29年8月7日（月）	講習時間	9:30～16:40（途中休憩70分を含む）	
<p>[講義内容]</p> <p>子どもの理解は各々の教員にとってきわめて重要な行為の一つです。他者を理解するための心理学的知見を知ることは、そのための一歩になるかもしれませんが、しかし、他者を理解するためには、一方で自らの理解も必要となります。本講習では、他者理解の知見について考えるとともに、自分の「性格」を知るための「心理テスト」などを用いて、自己理解に重点を置いて、子どもの理解について考えていきます。ワークショップ形式で進行する予定です。</p> <p>[到達目標]</p> <p>教員という仕事はあまりにも忙しく、ゴールがありません。物理的余裕、そして精神的な余裕もない中では、自らを見つめることはなかなか困難なことです。本講習では、子どもを理解する自らの枠組みについて改めて見つめ直す機会を提供し、そのことを体験的に実感していただき、自らをこれまでとは異なる別の視点からとらえられるようにしていきます。</p> <p>[備考]</p> <p>一方通行的な講義のみではなく、種々のワークを予定しているので、積極的に参加していただくとありがたいです。</p>				